

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

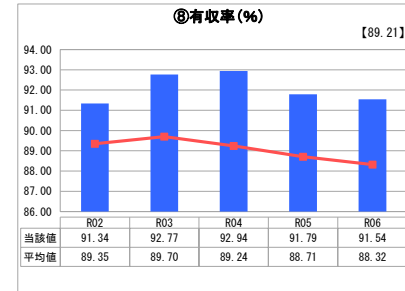
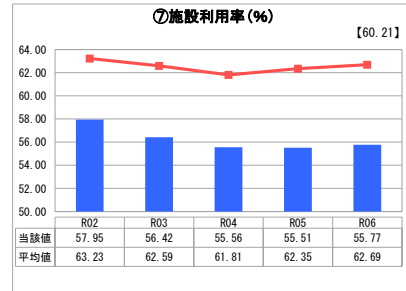
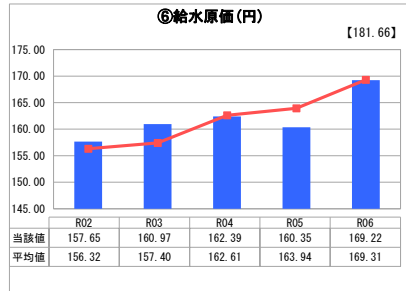
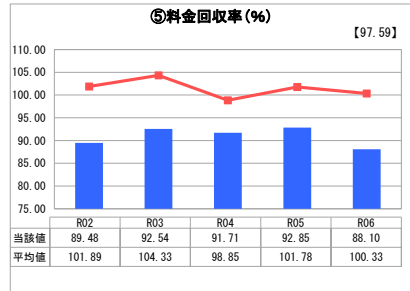
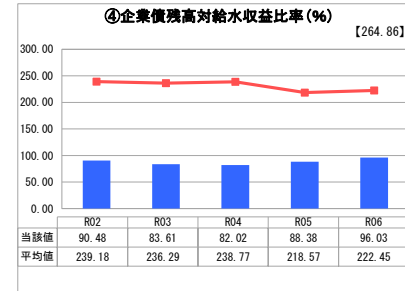
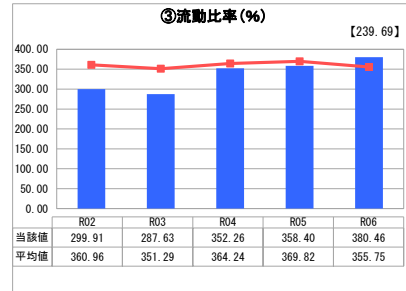
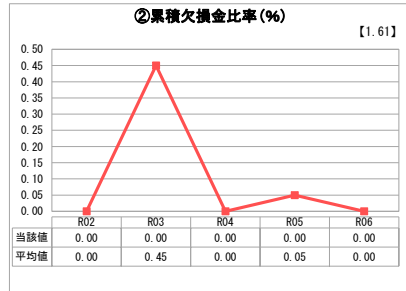
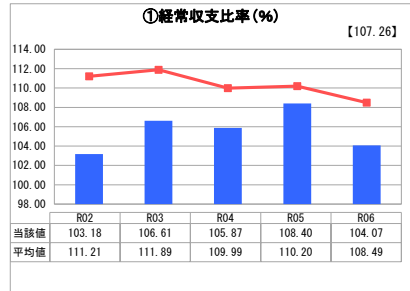
埼玉県 鴻巣市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)	
-	85.85	99.94	3,058	

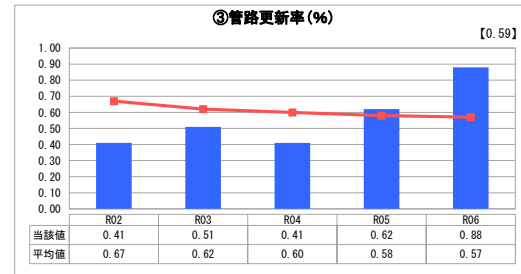
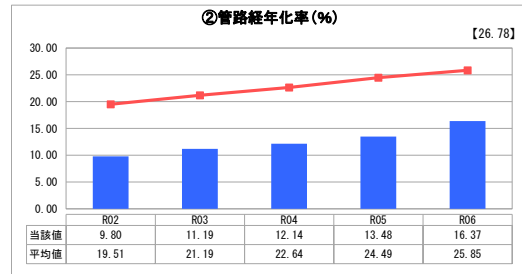
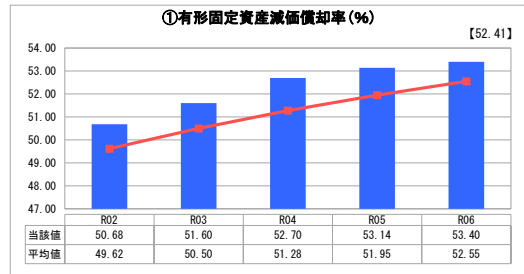
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
117,564	67.44	1,743.24
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
117,401	62.44	1,880.22

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和6年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は100%を超え収支は黒字となっておりますが前年度と比較すると4.33%減少しており、これは給水収入や加入金などの収益の増額以上に動力費をはじめとした物件費の高騰による費用が増加したことによるものです。

②累積欠損比率は長期にわたって0%であり、本市の水道事業は安定した運営ができていますと考えられます。

③流動比率は例年100%を大きく上回っており、短期的な債務に対する支払能力を有しています。

④企業債残高対給水収益比率は企業債の発行を抑制してきた時期があったことから現在でも低い水準となっています。

⑤料金回収率は、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症拡大や物価高騰の影響を受ける市民生活等の支援として行った基本料金免除の影響により、100%を大きく下回っています。

⑥給水原価は有収水量が年々減少していること、動力費や修繕費などの物件費が増加していることなどから増加傾向にあります。引き続き計画的に管路の更新を行い、適正な維持管理や効率化による費用の削減に努めます。

⑦施設利用率は類似団体を大きく下回っており、ダウンサイジングなど施設能力の適正化について、今後検討していく必要があります。

⑧有収率は類似団体を上回り、90%を超える水準となっております。

### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は類似団体より、高い値となっております。

②管路経年化率については、例年、類似団体平均を下回っておりますが、増加傾向にあります。

③管路更新率については、令和4年度までは類似団体平均を下回っていましたが、令和5年度以降は布設工事を優先的に進めたことなどから、前年度から0.26%増加し、類似団体平均と比較しても高い値となりました。

施設全体の減価償却率は高くなっており、浄水場施設・設備等の老朽化も進んでいると考えられますが、耐用年数経過後も適正な維持管理による延命化を図るとともに、経営状況を踏まえた上で適正な投資を進めていきます。

### 全体総括

経営の健全性・効率性に係る指標から、財務状況については、概ね健全な状況にあると言えますが、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症拡大や物価高騰の影響を受ける市民生活等の支援として行った基本料金免除の影響から料金回収率が100%を下回っています。これは近年の特殊な事情によるものですが、今後は人口減少や節水機器の普及により、給水収益は減少していく見込みとなります。収益が減少すると、施設の維持管理や更新に必要な資金が不足し、結果としてサービスの質が低下する恐れがあります。そのため、計画的な更新を実施して事業費の抑制、平準化を図ることや水需要に見合った施設規模の適正化、迅速な維持管理による延命化など効率的な事業運営が必要になります。水道事業を取り巻く環境は厳しさを増していますが、今後も健全で安定した運営が継続できるよう、中長期的な視点に立ち、課題の解決に努めてまいります。